

行基の遺志

喜光寺は、庶民を救済し、多くの公共施設を立ち上げたことで知られる僧、行基（668-749）によって創建された。行基は晩年を喜光寺で過ごすことを選んだが、これはこの寺が行基の遺志といかに密接に結びついているかを示している。

行基は 15 歳のとき、有力な仏教指導者であった道昭（629-700）に師事し、僧侶としての修行を始めたと考えられている。道昭の死後、行基は広く旅をしながら仏教を説き、橋や灌漑設備、診療所などの公共事業を手掛けた。飢饉と疫病に見舞われた不穏な時代に、行基は人々を大いに助けた。

行基は世間一般には慈悲深い人物であったにも関わらず、物議を醸す人物でもあった。行基は、仏教僧が一般大衆に説法することを禁じた国の公式制令から外れて活動したのだ。717年、元正天皇（680-748）は、行基とその信者を戒め、僧侶は寺院内に居住しなければならないという勅令を出した。それでも行基は慈善活動を続け、多くの信者を集めた。721年、彼は喜光寺を創建した。

元正天皇の後を継いだ聖武天皇（701-756）は、信奉者を集め、さまざまな事業のため

の基金を調達する行基の能力を高く評価した。聖武天皇は、東大寺大仏殿の建立のための勸進役を正式に行基に依頼した。喜光寺の本堂は、行基にとって大仏殿の「原型」であったと考えられている。745年、77歳の行基は、仏教僧の最高位である大僧正の位を初めて与えられた。その4年後、弟子たちに囲まれながら喜光寺の境内で亡くなった。

行基没後1250年を記念して1998年に造られた行基像をはじめ、喜光寺はさまざまな形で行基に敬意を表している。2014年には、この行基の像を安置するためのお堂も建てられた。毎年3月2日には、行基の命日を記念する祭礼が行われる。